

# 第44回 目黒区世論調査

目黒区への定住性

政治への関心度

区の施策

広報・インターネット

暮らし向き

地域・日常生活

地域活動・町会自治会

地球温暖化対策

みどりの役割と公園利用

生物多様性

運動・スポーツ

生涯学習

図書館

窓口サービス

## 目黒区

平成26年10月



## はじめに

目黒区では、「住みたいまち、住み続けたいまち目黒」の実現に向けて、安心して暮らしを営むことができる、活力にあふれた地域社会づくりを推進しています。

そのためには、区民の皆様からの多様なご意見やご要望などを把握・分析し、施策への確に反映させていくことが大切になります。そこで、区では「区長へのはがき」や「区長へのメール」、「区民と区長のまちづくり懇談会」などを通じて区民の声を幅広く把握する様々な広聴活動を行っているところです。

目黒区世論調査も、こうした広聴活動の一つとして、区民の皆様のご生活実態や、区政の各分野についての意識・意向等を把握するために昭和44年から実施しています。事務事業の見直しにより3年ぶりの実施となりました今回の調査は、44回目の実施となります。

今回の調査では、定住性や施策への要望など、経年で行っている調査項目のほか、「地域活動・町会自治会」「生物多様性」「運動・スポーツ」「生涯学習」「窓口サービス」などの項目についてもお伺いしました。

この調査によって得られた結果は、今後の区政運営の貴重な資料として有効に活用させていただきます。また、関係各方面におかれましても、お役立ていただければ幸いです。

最後になりましたが、この調査にご協力いただきました区民の皆様にご心から御礼申し上げます。

平成26年10月

目黒区長 青木英二

# 目次

---

## 第1章 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 回収結果	5
5. この報告書の見方	6
6. 回答者属性	7

## 第2章 調査結果のまとめ

### 1. 目黒区への定住性

1-1 居住年数	13
1-2 居住理由	16
1-3 定住・転出意向	20
1-4 将来の居住地予想	24

### 2. 政治への関心度

2-1 区政・都政・国政への関心度	28
2-2 区長の名前の認知度	33

### 3. 区の施策

3-1 良いと思うところ・悪いと思うところ	35
3-2 優先して行ってほしいところ	40

### 4. 広報・インターネット

4-1 希望する情報の入手先	45
4-2 めぐる区報の入手先	47
4-3 めぐる区報の閲覧状況	49
4-4 めぐる区報を手にしていない理由	52
4-5 インターネットの利用状況	54
4-6 インターネットの利用場所	57
4-7 目黒区公式ホームページの閲覧状況	60
4-8 目黒区公式ホームページの満足度	64
4-9 目黒区公式ホームページで満足できない理由	66
4-10 目黒区公式ホームページで改善した方がよいところ	68

### 5. 暮らし向き

5-1 暮らし向きの変化	69
5-2 暮らし向きが苦しくなった理由	73

---

<b>6. 地域・日常生活</b>	
6-1 住んでいる地域・日常生活について	77
<b>7. 地域活動・町会自治会</b>	
7-1 近所づきあいの状況	85
7-2 地域活動への参加状況	88
7-3 参加した地域活動	91
7-4 地域活動に参加したかたの年齢	92
7-5 地域活動に参加したことがない理由	93
7-6 住区住民会議が行っている地域活動の認知状況	94
7-7 町会・自治会が行っている地域活動の認知状況	96
7-8 町会・自治会への加入状況	98
7-9 町会・自治会へ加入していない理由	100
<b>8. 地球温暖化対策</b>	
8-1 地球温暖化問題への意識	101
8-2 地球温暖化防止のために優先すること	103
8-3 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと	106
<b>9. みどりの役割と公園利用</b>	
9-1 みどりに求める役割	109
9-2 どのように公園を利用したいかの意向	112
<b>10. 生物多様性</b>	
10-1 生物多様性の認知度	116
10-2 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度	119
10-3 生物多様性関連事業で重要なこと	122
<b>11. 運動・スポーツ</b>	
11-1 運動やスポーツの実施状況	125
11-2 現在行っている運動・スポーツ	128
11-3 今後行いたい運動・スポーツ	131
11-4 「総合型地域スポーツクラブ スポルテ目黒」の認知度	134

---

## 12. 生涯学習

12-1	生涯学習活動への参加の有無	136
12-2	参加した生涯学習活動の種類	139
12-3	生涯学習活動をしない理由	141
12-4	生涯学習の推進のために必要なこと	143
12-5	知識・経験の地域還元	145

## 13. 図書館

13-1	図書館の利用状況	148
13-2	利用図書館	150
13-3	図書館の利用頻度	153
13-4	今後に期待する図書館サービス	155

## 14. 窓口サービス

14-1	窓口サービスの印象	157
14-2	印象が良かったところ	159
14-3	印象が悪かったところ	161
14-4	今後気をつけるべきところ	163

## 第3章 付表

調査票	167
集計表	182

# 第 1 章 調査の概要





## 1. 調査の目的

本調査は、区民の生活実態の把握及び区政の各分野について区民の意識、意向、意見や要望を把握し、これを今後の区政に反映させることを目的としたものである。

## 2. 調査の内容

本調査は、以下の調査項目について行った。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 目黒区への定住性   | 8. 地球温暖化対策     |
| 2. 政治への関心度    | 9. みどりの役割と公園利用 |
| 3. 区の施策       | 10. 生物多様性      |
| 4. 広報・インターネット | 11. 運動・スポーツ    |
| 5. 暮らし向き      | 12. 生涯学習       |
| 6. 地域・日常生活    | 13. 図書館        |
| 7. 地域活動・町会自治会 | 14. 窓口サービス     |

## 3. 調査の設計

- (1) 調査地域：目黒区全域
- (2) 調査対象：目黒区在住の満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数：3,000人
- (4) 抽出台帳：目黒区住民基本台帳（平成26年6月1日現在）
- (5) 抽出方法：層化無作為抽出
- (6) 調査方法：郵送配布・郵送回収法
- (7) 調査期間：平成26年6月10日～6月30日

図3-1 地域区分

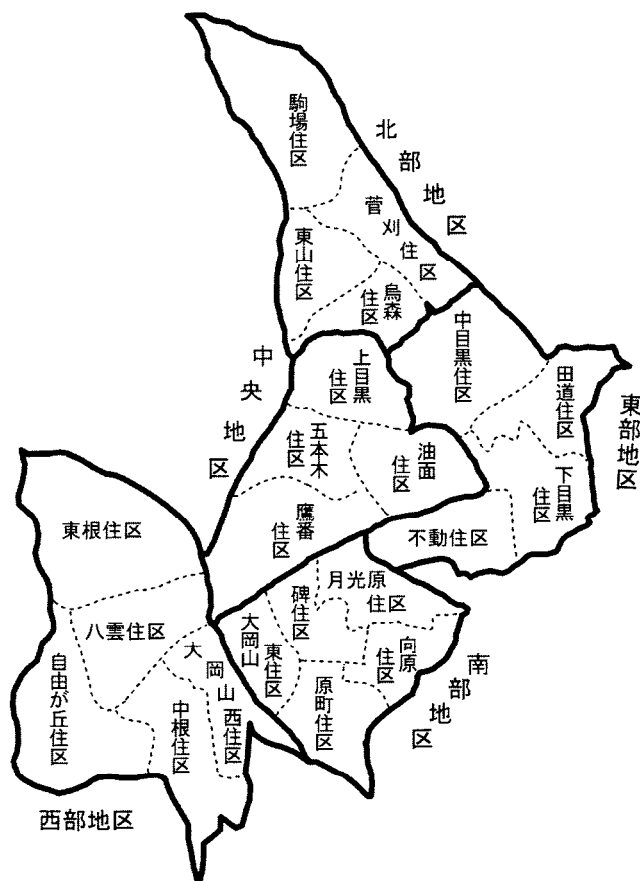


表3-1 地域・住区・町丁目対応表

地区	住区	区 域
北 部	駒 場 住 区	駒場1～4丁目、大橋2丁目の一部
	菅 刈 住 区	青葉台1～4丁目、大橋1丁目、上目黒1丁目の一部
	東 山 住 区	東山1丁目の一部、東山2・3丁目、上目黒5丁目の一部、大橋2丁目の一部
	烏 森 住 区	東山1丁目の一部、上目黒2・3・5丁目の各一部
東 部	中 目 黒 住 区	上目黒1～3丁目の各一部、中目黒1～3丁目、中目黒4・5丁目の各一部
	田 道 住 区	三田1・2丁目、目黒1丁目、目黒2・3丁目の各一部、中目黒4丁目の一部
	下 目 黒 住 区	目黒2・3丁目の各一部、下目黒1～3丁目
	不 動 住 区	下目黒4～6丁目、目黒本町1丁目
中 央	上 目 黒 住 区	上目黒4丁目、中目黒5丁目の一部、五本木1丁目、祐天寺1・2丁目
	油 面 住 区	中目黒5丁目の一部、目黒4丁目、中町1丁目、中町2丁目の一部
	五 本 木 住 区	五本木2・3丁目、中央町2丁目、中町2丁目の一部
	鷹 番 住 区	中央町1丁目、碑文谷5・6丁目、鷹番1～3丁目
南 部	月 光 原 住 区	目黒本町2・4丁目、目黒本町3・5・6丁目の各一部
	向 原 住 区	目黒本町3・5・6丁目の各一部、原町1丁目
	碑 住 区	碑文谷1・2丁目、目黒本町6丁目の一部
	原 町 住 区	原町2丁目、洗足1・2丁目、南1丁目
	大 岡 山 東 住 区	南2丁目、碑文谷3・4丁目
西 部	大 岡 山 西 住 区	南3丁目、平町1丁目、平町2丁目の一部、大岡山1丁目の一部
	中 根 住 区	大岡山1丁目の一部、大岡山2丁目、緑が丘1・3丁目、中根2丁目、平町2丁目の一部
	自 由 が 丘 住 区	緑が丘2丁目、自由が丘1～3丁目、八雲3丁目、中根1丁目の一部
	八 雲 住 区	柿の木坂1丁目、八雲1・2丁目、中根1丁目の一部
	東 根 住 区	柿の木坂2・3丁目、八雲4・5丁目、東が丘1・2丁目

#### 4. 回収結果

(1) 標 本 数 : 3,000 標本

(2) 回 収 総 数 : 1,745 票                      回 収 率 : 58.2%

(3) 有 効 回 収 数 : 1,742 票                      有 効 回 収 率 : 58.1%

(4) 地域別回収結果

地区名称	満20歳以上人口		世論調査対象者数		有効回収数		
	実数 (人)	地域別 構成比 (%)	対象者数 (人)	地域別 構成比 (%)	回収数	地域別 構成比 (%)	回収率 (%)
北 部 地 区	38,084	16.4	488	16.3	264	15.2	54.1
東 部 地 区	47,485	20.5	617	20.6	377	21.6	61.1
中 央 地 区	47,734	20.6	621	20.7	339	19.5	54.6
南 部 地 区	41,226	17.8	532	17.7	319	18.3	60.0
西 部 地 区	57,316	24.7	742	24.7	443	25.4	59.7
合 計	231,845	100.0	3,000	100.0	1,742	100.0	58.1

注) 平成 26 年 6 月 1 日現在の人口と抽出対象数に基づく。

注) 構成比は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、100.0%にならないことがある。

## 5. この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（number of caseの略）は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。したがって、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超える。
- (2) 調査結果の比率は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての比率を合計しても100.0%にならないことがある。また、複数の選択肢の比率の合計は、件数を合計して算出しているため、比率の計と一致しないことがある。
- (3) 図表中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化してある。
- (4) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (5) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、件数が30未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていないことがある。
- (6) 標本調査を行ったため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を95%とした場合）は以下の式により求められる。

$$(\text{標本誤差}) b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \left[ \begin{array}{l} N = \text{母集団 (目黒区の満20歳以上人口)} \\ n = \text{比率算出の基数 (回答者数)} \\ p = \text{回答の比率} \end{array} \right]$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の

範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

表5-1 標本誤差早見表（信頼度：95%）

回答の比率(p) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,742	±1.4%	±1.9%	±2.2%	±2.3%	±2.4%
1,500	±1.5%	±2.1%	±2.4%	±2.5%	±2.6%
1,400	±1.6%	±2.1%	±2.4%	±2.6%	±2.7%
1,300	±1.7%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.8%
1,200	±1.7%	±2.3%	±2.6%	±2.8%	±2.9%
1,100	±1.8%	±2.4%	±2.8%	±3.0%	±3.0%
1,000	±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
800	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.5%	±3.5%
500	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
200	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
100	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%

注：この表の見方

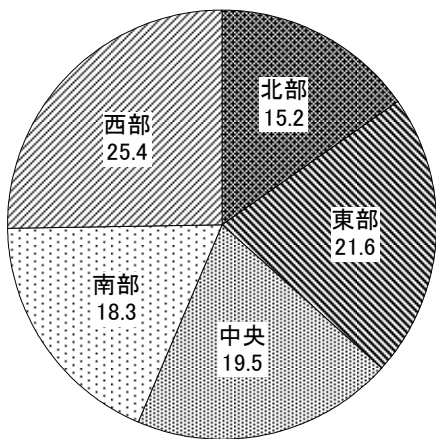
例えば、回答者数が1,742である質問における、ある1つの選択肢の回答の比率が30%であった場合、標本誤差は±2.2%となり、標本誤差を補正すると、回答の比率は27.8%～32.2%の範囲にあることが95%の信頼度でいえることになる。

## 6. 回答者属性

- ・回答者の性別は、「男性」が40.7%、「女性」が58.6%となっている。
- ・年代は、「40代」が19.5%で最も多く、次いで「30代」18.0%、「60代」16.3%の順となっている。
- ・職業は、「常勤の勤め人」が36.7%で最も多く、次いで「無職」17.2%、「主に家事に従事」15.6%の順となっている。
- ・世帯構成は、「二世世代家族」が43.2%で最も多く、次いで「夫婦のみ」25.3%、「一人暮らし」22.2%の順となっている。
- ・配偶者の有無は、「配偶者がいる」が59.1%、「配偶者がいない」が39.2%となっている。
- ・配偶者のいる方の共働きの有無は、「共働きをしている」が46.4%、「共働きではない」が47.8%となっている。
- ・家族構成は、「就学前の乳幼児がいる」が8.1%、「小・中学生がいる」が10.8%、「65歳以上の方がいる」が40.4%となっている。
- ・居住形態は、「一戸建持家」が40.3%で最も多く、次いで「賃貸の鉄筋アパート・マンション」22.2%、「分譲マンション」20.4%の順となっている。

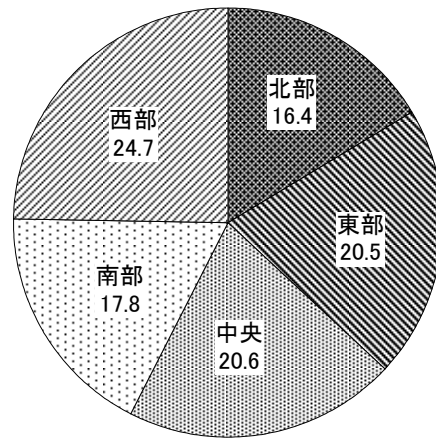
### (1) 居住地区

(参考) 住民基本台帳における居住地区の割合 (満20歳以上)  
平成26年6月1日現在



n = 1,742

(%)

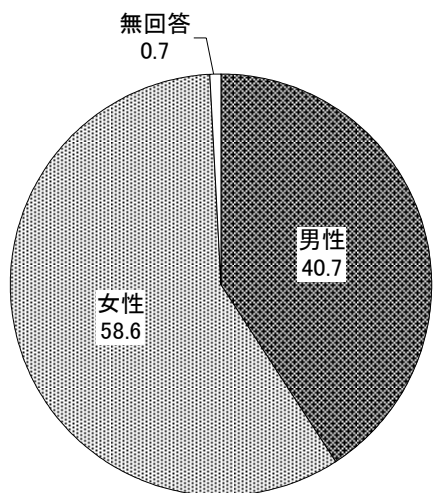


n = 231,845

(%)

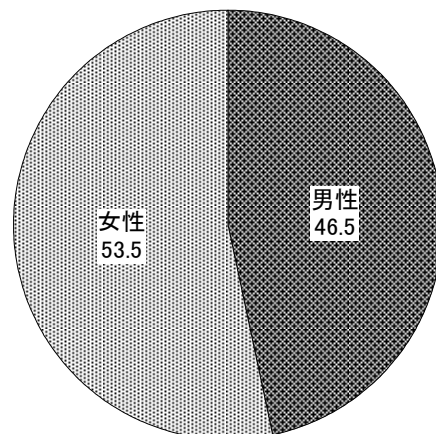
### (2) 性別

(参考) 住民基本台帳における性別の割合 (満20歳以上)  
平成26年6月1日現在



n = 1,742

(%)



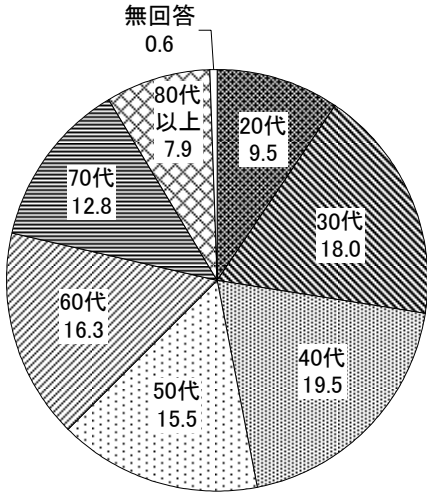
n = 231,845

(%)

(3) 年代

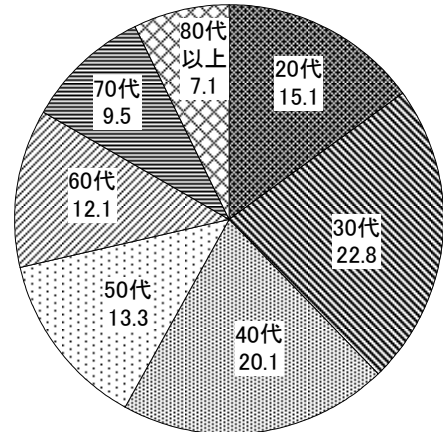
(参考) 住民基本台帳における年代の割合 (満20歳以上)

平成26年6月1日現在



n = 1,742

(%)

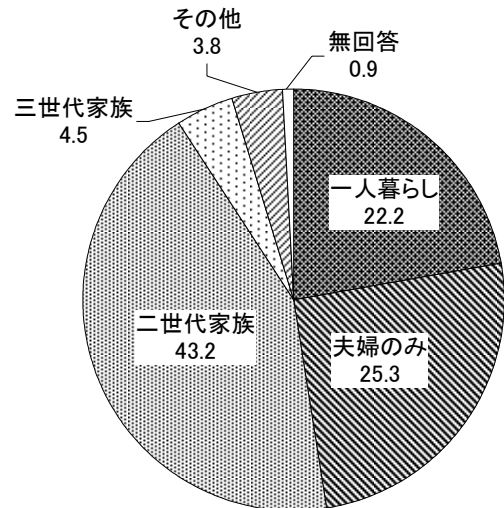
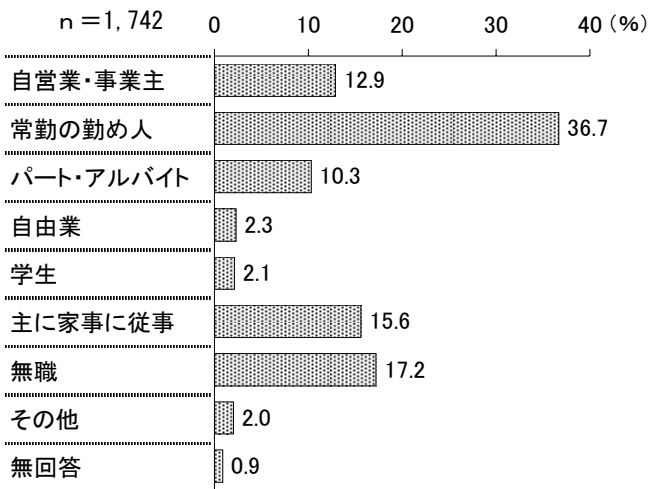


n = 231,845

(%)

(4) 職業

(5) 世帯構成

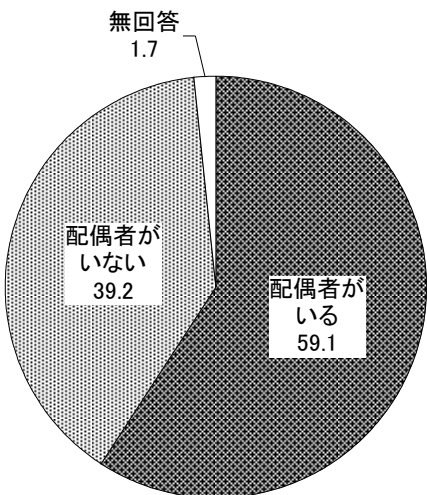


n = 1,742

(%)

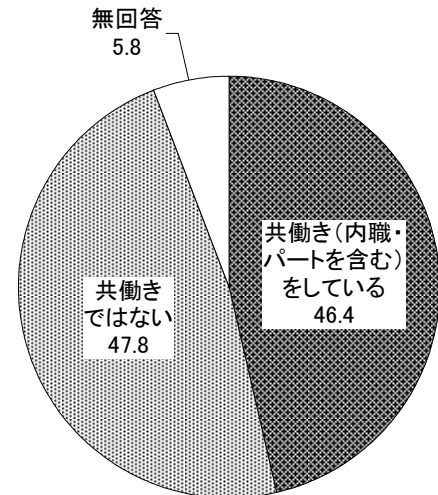
(6) 配偶者

(7) 共働き



n = 1,742

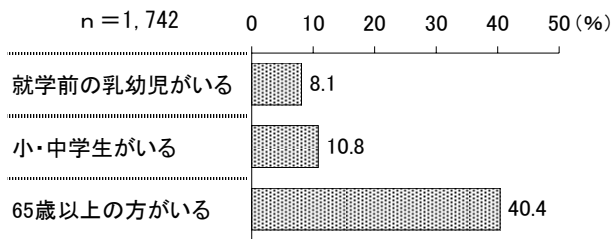
(%)



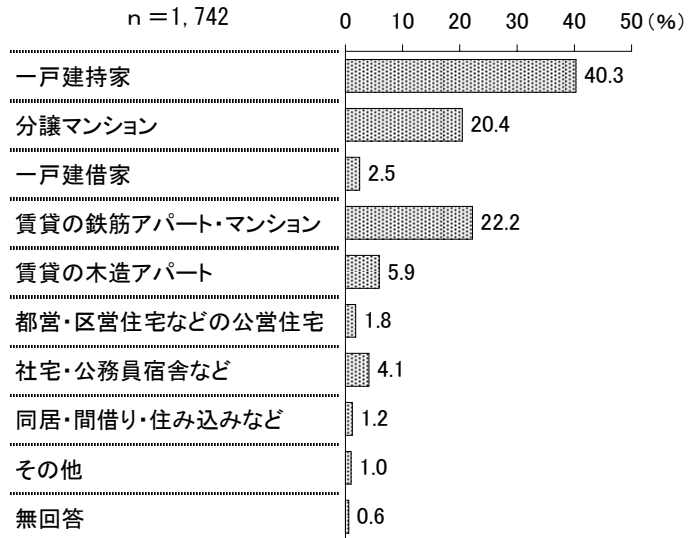
n = 1,029

(%)

(8) 家族構成



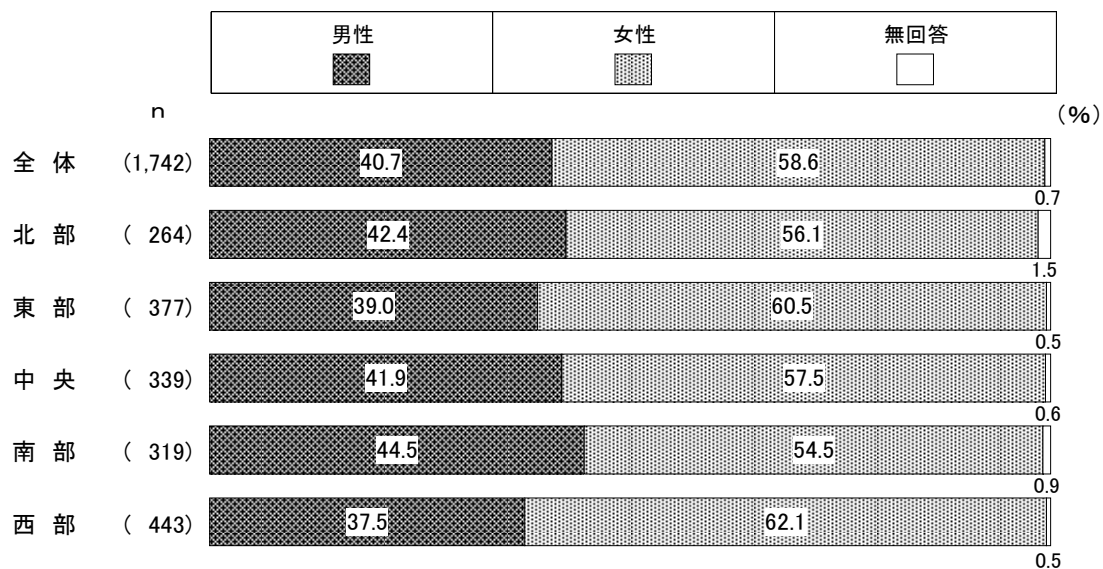
(9) 居住形態



(10) 地区別の状況

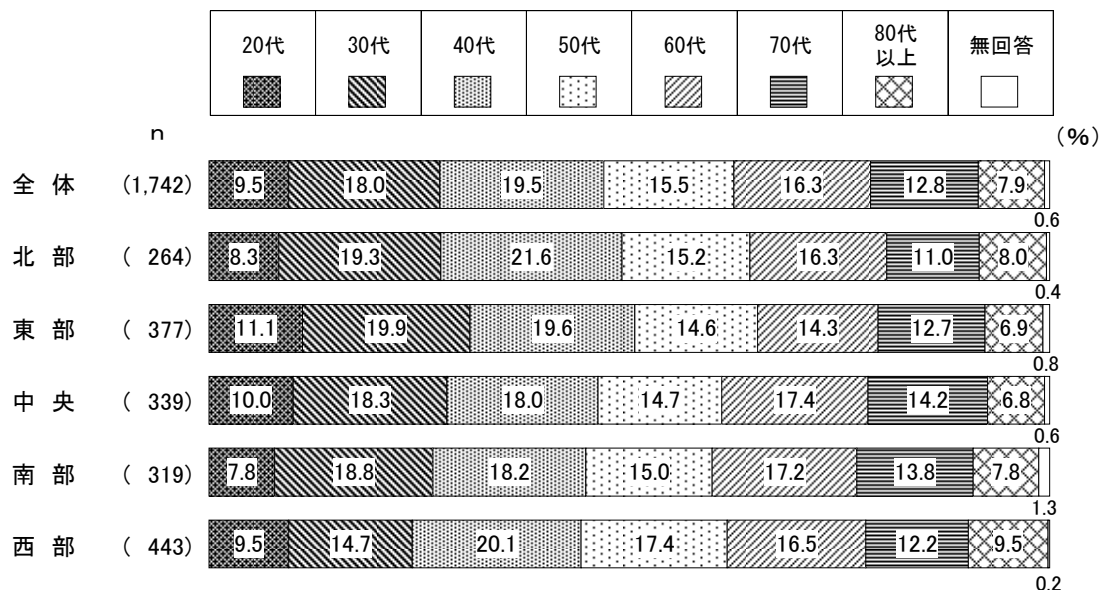
●地区別に見た男女構成

- ・「男性」は南部地区、北部地区、中央地区で全体より高く4割を超えており、「女性」は西部地区、東部地区で全体より高く6割以上を占めている。



●地区別に見た年代構成

- ・地区間で大きな傾向の差はみられない。



●地区別に見た居住形態

- ・「一戸建持家」は西部地区 (50.8%)、中央地区 (47.5%)、南部地区 (42.9%) で全体 (40.3%) に比べて高くなっている。
- ・「分譲マンション」は北部地区 (30.3%)、東部地区 (29.7%)、南部地区 (20.7%) で全体 (20.4%) に比べて高く、「賃貸の鉄筋アパート・マンション」は東部地区 (25.7%) で全体 (22.2%) に比べて高く、「社宅・公務員宿舎など」は北部地区 (11.0%)、東部地区 (4.8%) で全体 (4.1%) に比べて高くなっている。

